

若尾さん、東さん、鴨頭さんの美濃陶芸



永年保存作品に選ばれた若尾経さん、東正之さん、鴨頭みどりさん
(左から)＝多治見市虎溪山町、とうしん学びの丘エール

若尾さんの「青釉組皿」は、たたらから力強い形を作り上げ、釉薬の厚さの違いで生じる貫入で流体の動きを表現した。

東さんの「青釉花器」は、ろろ成形で制作。型で作ったようなひだの美しさが自慢で、海を思わせる青のグラデーションが彩りを添える。

鴨頭さんの陶人形「精霊のつどい」は、精霊2体と口を大きく開けたコイの頭1体の組み合わせで、自然のエネルギーを形にした独自の世界観が魅力。

多治見市虎溪山町のとうしん学びの丘エールで行われた発表

東濃信金
選定事業
美しさや独自性評価

東濃信用金庫の「美濃陶芸作品永年保存事業」の本年度選定作品が27日発表され、若尾経さん(50)＝多治見市小名田町＝、東正之さん(57)＝同市東栄町＝、鴨頭みどりさん(64)＝同市市之倉町＝の3作品が選ばれた。(松尾法尋)

3作品、永年保存に

月に行われた発表会では、3人は「これからも精進したい」など意気込みを語った。

本年度は5点の推薦があり、推進委員長の加藤幸兵衛さんらが2月に作品を選んだ。永年保存作品として同金庫が買い上げ、4月から1年間、とうしん美濃陶芸美術館(同市虎溪山町)で展示。永年保存作品は今回を含め計96点となった。